

9月18日 国有林作業現場等見学交流会を開催

【名古屋事務所・愛知森林管理事務所】

9月18日、名古屋地域の木材関連産業の従事者等、約30名参加のもと、国有林作業現場等見学交流会を開催しました。

この交流会は、川下の都市部の木材産業従事者や建築士等の方々に、川上の森林・林業の実情や取組について理解を深めていただくことを目的に、名古屋木材組合と連携して、平成25年から毎年実施しています。

今年度は、愛知森林管理事務所管内、段戸(だんど)国有林(愛知県設楽町)の素材生産事業現場と、木材の流通・加工施設を見学しました。

国有林の生産現場は林齢126年のヒノキ林の高齢級間伐地で、ブランド材「段戸SAN」の生産を行っています。この事業の受注者の(株)岡本の皆様により、チェーンソー伐倒からチェーンソー造材、フォワーダへの積み込みまで、一連の素材生産作業をデモンストレーションしていただきました。

実際に山で伐倒作業を見たことのない参加者が多く、樹齢100年を超える立木の伐倒のデモンストレーションでは、慎重な作業の後、木が倒れた時の迫力ある振動に、自然と拍手が湧き起きました。ブランド材として市場へ出品するための丁寧な造材作業や、林業機械の操作も興味深く見学をされていました。



段戸SANの伐倒



造林作業のデモンストレーション

午後からは、愛知県新城市にある三河材流通加工センター(通称:HOLZ三河)に移動し、原木市場から、製材、プレカットに至るまで一貫した供給体制を備えた施設の見学を行いました。原木の販売・流通についての基礎や、加工の各工程について、広い施設内を説明しながらご案内いただきました。



HOLZ三河 木材市場



木材加工施設の見学

参加者からは、伐採・搬出現場の大変さや、普段取り扱っている建材が、伐採から選定、加工など様々な工程を経ていることや、現場の方々の課題を知ることができた等の感想があり、木材に対する意識を新たにしていただけたようでした。